

松江市に住む中2の少年とお母さんから電子顕微鏡観察の希望があり、電顕が置いてある米子市児童文化センターに行った。

「どちらから?」と尋ねると「八雲町です」。「熊野大社のところですか?」



電顕通信Ⅱ

ね。何を観察したいですか?」「近くの神社の境内でキノコを採ってききました」ということで、キノコ観察をすることに。

凶鑑で調べると「ノウタケ」らしい。少年が傘の一部を切り取って試料台に乗せ電顕にセットした。40倍で糸が絡まったような菌糸が見える。500倍で丸い胞子の塊が現れ、2千倍

でコンペイトーのように内側にはドット模様、外側にはトゲのようなものを確認。少年は操作も速く的確である。さらに1万倍にしてトゲの長さ0・4ミリ(1ミリは千分の1)まで測定。2万倍、6万倍まで倍率を上

げた。巨大なトゲが現れ、指導者の方が「これはすごい!!」と驚嘆の声を上げた。電顕観察は、新たな発見と驚きの連続である。この夏の自由研究にぜひ活用してほしい。

(とかみん)